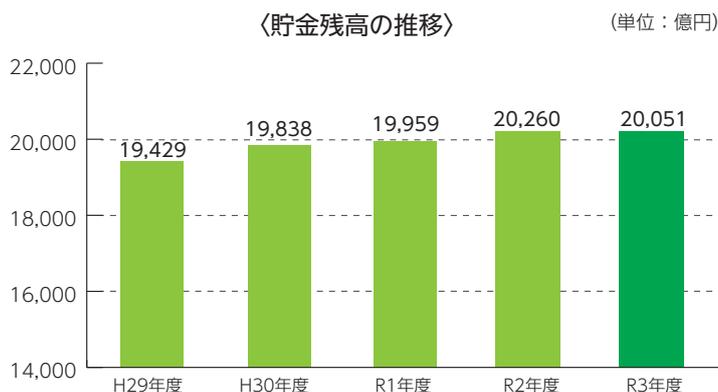


令和3年度業績の概要

日本銀行の金融緩和政策の継続により、金利が引き続き低水準で推移するなか、令和3年度の業績は、次のとおりとなりました。

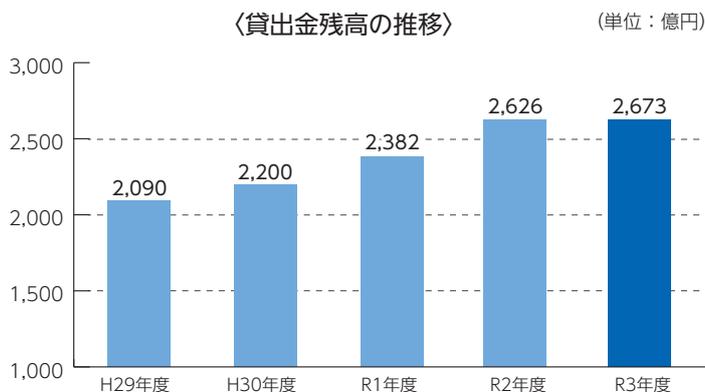
■ 貯金残高

JAの自己運用力向上にともない前期比208億円減少し、2兆51億円となりました。



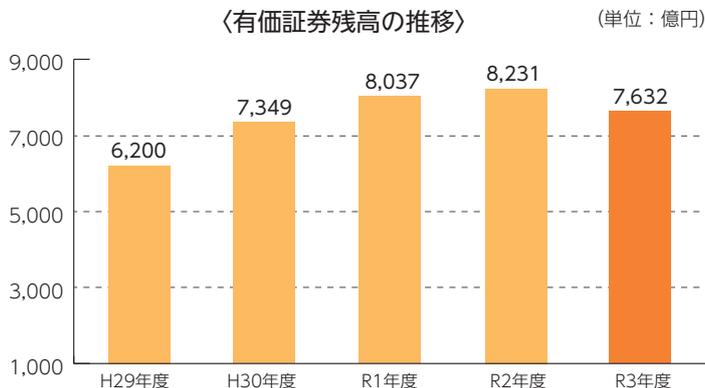
■ 貸出金残高

県内の農業・食品関連企業や県内外の一般企業等への資金提案、新型コロナウイルス感染症に対応した資金繰り支援に取り組んだ結果、前期比46億円増加し、2,673億円となりました。



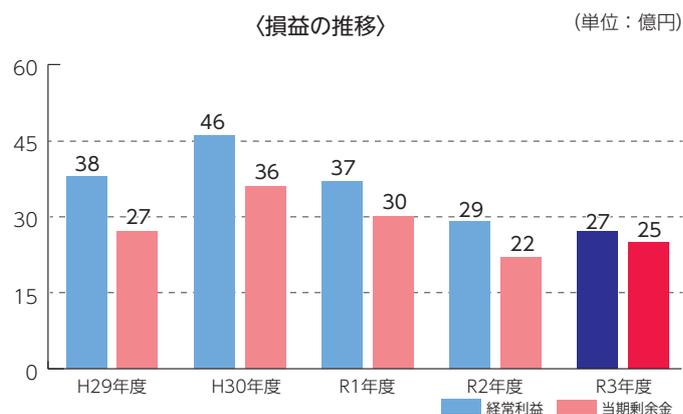
■ 有価証券残高

運用効率の向上および実現益の確保を目的として、期待リターンの低い中短期の債券や受益証券を積極的に売却した結果、前期比598億円減少の7,632億円となりました。



■ 損益

貸出金の残高増強を図った一方、運用利回りの低下により、経常利益は前期比2億円減少し、27億円となりました。また、当期剰余金は前期比2億円増加し、25億円となりました。



■ 自己資本額・自己資本比率

自己資本額は、前期比15億円増加し、1,288億円となりましたが、ポートフォリオの変更にとまなうリスク・アセット額の増加により、自己資本比率は前期比0.10ポイント低下の12.71%となりました。

なお、同比率は、安全基準とされる国内基準の4%、国際基準の8%を上回っており、高い安全性・健全性を維持しています。

